

C 太平洋資源分布調査

I 調査目的

沿岸漁業の健全な発展を図るため、太平洋沿岸における底棲魚類の分布生態および資源状態を把握することを目的とする。

II 調査内容

- 1 調査期間 昭和49年1月4日～昭和49年3月10日
- 2 調査場所 青森県太平洋沖合 141' 50' 以西の海域（共同漁業権漁場を除く）
- 3 調査員および調査船
 - (1) 調査員 漁業課長 浅加 信雄
技師 中田 凱久
技師 高梨 勝美
 - (2) 調査船 幸洋丸（121トン22 400馬力）

4 調査項目

- (1) 貝類および、カニ類分布状況調査
- (2) 漁場環境調査

5 調査方法

試験船幸洋丸によりカニ籠30個及びツブ籠30個を使用しておこなった。

- 餌は冷凍サバ3～4尾を籠中に吊した。
- 漁場の選定
資源分布調査漁場図にもとづき1海区1回以上投籠。

III 調査結果

今年度の調査は第1図の調査海域のうち北は平沼から南は百石沖までで8海区を実施したが、モスリガイのもっとも多く分布していた海区は180海区（水深55～60m）で殻長6cm以上が1個、4～6cmが384個、4cm以下335個であった。200個以上の海区は129、171海区で、その他の海区では25～142個で余り多い分布ではなかった。他の魚類も141海区でタコ4尾が獲られただけで他の魚種の入籠は見られなかった。

なお、各海区漁場における海底地形は平坦で、底質は砂まじりの泥質であったが、水深別でみると分布密度の高かったのは水深44～62mで、それ以深での分布密度は低かった。本年は調査計画漁場のうち一部の海区を実施したにすぎず、又、1海区1回のみの調査であったので十分な資料を得るに至らなかった。

IV 調査の成果および今後の課題

1 調査の結果

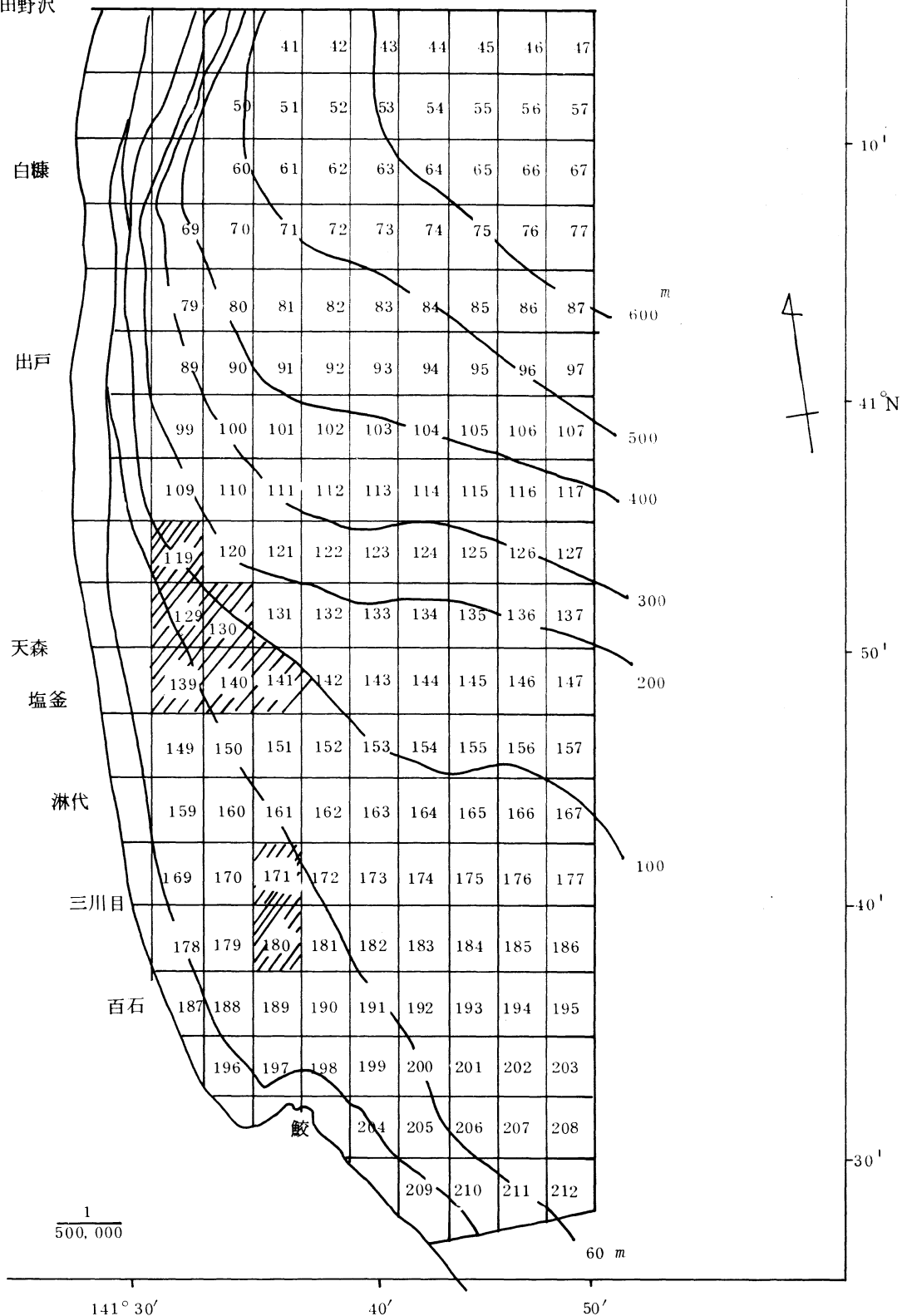
- (1) 調査海区（8海区）における貝類分布が明かとなった。

2 今後の課題

- (1) 時期別海域（水深）別の調査。
- (2) 漁具の検討

第1図 資源分布調査漁場図

小田野沢



第1表

資 源 分 布 調 査 表

投カゴ						気象							揚カゴ		漁獲				
月日	時 間	海 区	水 深	投カゴ方 向	カゴ数		天候	風向力	気温	気 圧	水 温		底質	月日	時 間	モスリガイ 6cm～	4 / 6	4 以 下	備 考
					大	小					表層	底層							
1. 21	11.00－11.25	139	始m終m 60－64	N	30	30	C	W 3	℃ 3.0	mb 1.022	℃ 9.1	℃ 9.1	S M	1. 21	15.00－16.10		5	20	
1. 31	11.45－12.00	130	80－110	N	15	30	b	WNW 4	3.0	1.024	7.8	8.0	S M	2. 1	09.00－10.15			53	
2. 1	10.30－10.48	140	74－70	S	15	30	C	W 4	0	1.020.5	8.0	7.8	S M	2. 2	08.50－10.05		10	47	
2. 7	11.50－12.10	141	50－55	SSE		30	C	SSE 4	－0.1	1.022	8.0	6.3	S M	2. 12	09.35－11.00		12	72	タコ 4
2. 19	10.30－10.45	171	54－62	S/E		30	C	SE 4	5.0	1.026	4.7	6.8	S M	2. 22	10.05－11.35	1	136	146	
2. 25	09.45－10.00	180	55－60	NNE		32	C	SW 2	2.0	1.012	5.1	6.0	S M	2. 28	08.10－09.25		384	335	
3. 6	12.07－12.20	129	45－50	NNE		30	C	E 4	4.0	1.021	4.8		S M	3. 9	10.45－12.00		101	129	
3. 9	12.07－12.22	119	44－48	N		30	C	SE 3	3.0	1.027	4.6	5.9	S M	3. 14	15.15－16.30		73	69	